

患者さんの権利

福井循環器病院で医療を受けられる患者さんには、次のような権利が保障されます。

- 1. 個人としてその人格を尊重される権利**
患者さんが、ひとりの人間として、その人格・価値観などが尊重される権利があります。
- 2. 良質で高度な医療を公平に受ける権利**
患者さんは、どなたでも平等かつ公平に、良質で高度な医療を継続して受ける権利があります。
- 3. 十分な説明を受ける権利**
患者さんは、病気の内容やその治療・検査などについて、分かりやすい言葉や方法で十分に理解できるまで説明（インフォームドコンセント）と情報を受ける権利があります。
- 4. 自己決定の権利**
患者さんは、説明と情報提供を受け、充分理解・納得された上で、治療方法などを自らの意思で選択する権利、あるいは拒否する権利があります。
- 5. 選択の自由の権利**
患者さんは、医療機関を自由に選択・変更する権利と、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 6. 情報の開示を求める権利**
患者さんは、自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 7. プライバシーの保護と秘密を保持される権利**
患者さんは、病院内でのプライバシーを守られる権利があり、診療の過程で得られた個人情報や医療上の秘密を厳守される権利があります。

患者さんには、良質で安全かつ効率的な医療の提供を受けて頂くために、次のことをお願いいたします。

- ◎ご自身の健康に対する正しい情報の提供と医療への積極的なご参加
- ◎他の患者さんの診療や職員の業務に支障をきたさないためのご協力
- ◎療養上、必要な制約を受けることへのご理解

地域医療支援病院

医療法人 福井心臓血管センター



福井循環器病院

〒910-0833 福井市新保2丁目228番地
TEL.0776-54-5660(代) FAX.0776-53-2132

- ホームページ <http://www.fcvc.or.jp/>
- E-メール heart-hospital@fcvc.or.jp

診療案内

診療科目

循環器科・心臓血管外科、消化器科、呼吸器科、内科、外科、小児科、眼科、リハビリテーション科、小児外科、麻酔科

診療指定

保険医療機関、国保医療取扱機関、労災指定医療機関、生活保護法指定医療機関、結核予防法指定医療機関、身体障害者福祉法指定医療機関、原爆被爆者一般疾患医療機関、救急告示病院

保険診療届出事項 (基本診療料の施設基準)

- 一般病棟入院基本料 (7対1入院基本料)
- 臨床研修病院入院診療加算
- 救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
- 診療録管理体制加算
- 医師事務作業補助体制加算 (75対1補助体制加算)
- 急性期看護補助体制加算1
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 栄養管理実施加算
- 医療安全対策加算1
- 褥創患者管理加算
- 急性期病棟等退院調整加算1
- 救急搬送患者地域連携受入加算
- 特定集中治療室管理科1



理念

私たちは いついかなる時も
自分たちの持てる力を 十分に発揮し
最先端の医療を 提供できる様に 常に研鑽を積み
患者さんに豊かな人生を 提供いたします



ご挨拶

地域医療連携室師長
木谷 春枝



このたび大里室長のもと、地域医療連携室の充実を図るため師長として配属になりました木谷春枝です。看護職としての配置は初めてとなります。それに伴い医療ソーシャルワーカー、事務職の総勢9名で体制を調えスタートいたしました。私は連携室への異動でつながりの大切さを感じ、地域の先生方、介護関連の方々を結ぶ窓口としての担当部署として責任の重大さを感じています。

これまで、他の医療機関からの受診依頼、検査予約、入院依頼受け、転院など電話対応による前方連携と、返書管理など院内での事務業務がほとんどでした。これからは医師、看護師、医療、ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ等の医療機関側と、ケアマネージャーや利用する介護サービスの担当者との橋渡し役も地域医療連携室が担っていきます。

医療ソーシャルワーカー、看護師が配置となったことで、以下の点を新たに連携室目標として掲げました。

『医療機関との連携をスムーズに進め、つながる窓口・つなげる窓口になる』

1. 多職種との意図的なカンファレンス
2. 連携による早期の退院調整・退院支援
3. 外部関係機関とのネットワーク作り

平成24年度診療報酬改訂において、時代は一医療機関内のチーム医療から地域、患者を含めたチーム医療が求められていく院内完結型の医療から、地域での医療・介護・福祉との協力が求められています。患者さんの生活を支える一員として、患者さん・御家族が望む生活の場に戻ることに、再入院予防など多職種との共同での医療・介護支援を行いたいと思います。これからは外来での経験を、前方支援や後方支援に生かしていきたいです。地域と院内を結ぶ「つなぐ・つなげる窓口」としての役割を認識し、顔が見える連携室を目指し地域に出ていきたいと考えています。皆様も病院にお越しの際は連携室にお立ち寄りください。また、電話対応など不慣れなことでご迷惑をおかけしていることもあるかと存じます。先生方、地域の皆様のご支援あつての地域医療連携室であり、今後ご利用して頂きやすい地域医療連携室となるよう努力して参りますのでよろしくお願いたします。

先生方におかれましては、介護福祉相談などについての御利用があればご遠慮なくご相談ください。またコメディカルの方々には、地域開放学習会のご案内をさせて頂いております。医師のみならず、多職種も心疾患を持つ患者を支援する専門職として、学習会を通じ交流を図ることができたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

(財)日本医療機能
評価機構認定病院



福井循環器病院は、
(財)日本医療機能評価機構が定める認定基準を達成していることを
証する認定証の交付(平成20年3月17日付)を受けています。

医療法人 福井心臓血管センター
福井循環器病院 [地域医療連携室]
TEL.0776-54-5761 (直通)
FAX.0776-54-5977 (専用)

最新CTフィリップス256スライスBrilliance iCTが導入されました



診療技術グループ 放射線技術科
技師長 田中 弘一

医療において画像診断の進歩には目覚ましいものがあり、特に実際の医療現場においてCT装置はなくてはならないものとなっています。

当院においてはよりよい医療を提供するための大きな一歩として、今年3月に16列CT装置を更新し、世界最高性能を有するフィリップス256スライスCT Brilliance iCTを導入しました。この装置は県内の病院では初めてで、北陸3県においても2台目の設置となります。

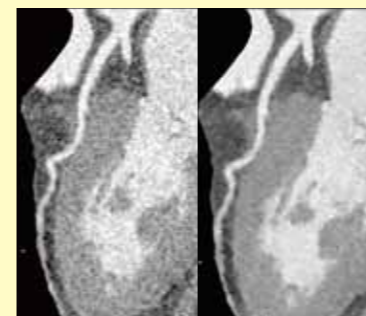
この装置にはいくつもの世界最高性能があります。第一に、多列化(80mm)された検出器による256sliceヘリカルスキャンにより、胸部から腹部といった広範囲においても短時間で高画質撮影が可能で、わずか3秒程度です。第二に回転速度が速いことです。高出力なX線管球(1,000mA)が世界最速0.27秒で一回転することで、以前から16列CTでも行われていた冠動脈CTにおいては、検査適応心拍が大幅に広

がるとともに画期的にブレのない静止画像が提供できるようになりました。(図1) 息止め時間も以前は20秒以上必要だったものが、3~4秒で撮影できるようになりました。第三に、患者被ばくを最大70%低減可能なことです。



(図1)

これは逐次近似画像再構成法(iDose⁴)を用いることで画質を保ちながら、被ばくを低減するという一見相反する事を可能にする方法で、近年各CT装置メーカーが力を注いでいるもののひとつです。



(図2) iDose⁴を用いることでノイズが低減されます

(図2) 昨年原発事故以来患者さんの被ばくに対する意識も高まっています。当科においても被ばくを抑えながら高画質を得ようと日々研鑽しているところです。当院では、以前の16列CT装置で12,000件近くの冠動脈CTを行ってきました。これらのノウハウを生かし、今回導入されたフィリップス256スライスCT Brilliance iCTを用いることにより、質の高い画像をより患者さまにやさしい形で提供できるものと考えています。また、低被ばく高速撮影が可能となったことにより小児の画像診断においても有効となり、適応範囲がますます増えるものと考えています。連携医の先生方にはこの装置を活用して頂き共に地域の医療に貢献できれば幸いです。

【CT画像】

1 いままで描出が難しかったStent内腔も描出可能となりました。



(図3) LADのStent内腔

2 少量の造影剤(40~50ml)で広範囲な部位を鮮明に撮影。(図4)



(図4) 左図CABG後、右図大動脈Stent後

3 iDose⁴を使用することで低被ばく撮影を行うことができます。

この画像(図5)の場合80kV、50mAsで撮影しましたが、肩と重なる肺尖部分のアーチファクトが改善されています。この技術を使えば小児の分野でも適応範囲が広がります。(図6)



(図5) 肺単純CTコロナル断 右がiDose使用 (図6) 乳児胸部11d

こんにちは、放射線技術科紹介



放射線技術科は、診療放射線技師8名・看護師1名・受付1名の合計10名のスタッフです。現在の業務内容は、一般撮影、透視検査、CT検査、アンギオ検査2室、核医学検査、腹部超音波検査などがおこなわれています。当院ではほとんどの部門で1週間のローテーションで勤務しています。一般の総合病院では固定されていたり、ロングローテーションであったりします。当院ではすべての技師が高いレベルで、オールラウンドに対応できることを目指しています。日々変化する検査内容においても、全ての技師が担当することにより共有することができ、たとえ休日・夜間であっても24時間どの技師でも即座に対応することができると考えています。また、短期間でローテーションすることによりマンネリ化を防ぎ、コミュニケーションがとれることにより、和気あいあいと楽

しく仕事ができているのかもしれない。

3月19日より256スライスCT Brilliance iCTに更新され、2か月でコロナリーCTはすでに300件以上おこなわれています。皆で四苦八苦しながらようやく装置や画像処理装置を使いこなせるようになってきました。今後は質の高い画像を保ちながら、より少ない造影剤で、より低被ばくな検査を行い、今まで以上に患者さんにやさしい検査になるよう日々研鑽していきたく思います。



256スライスCT導入に際して

福井循環器病院院長 大橋博和



この度当院に世界最速、最高性能のCTが導入されました。しかし、そういう高度の医療機器が十分に生かされるかどうか、性能を十分に発揮できるかどうか、要は使う人間次第であります。

それに関しましては、当院は今まで16スライスのCTでありましたが、どうしてこんなにすごい画像が得られるのか、どうしてこんなに高度の解析ができるのかと、64スライス他の病院からたびたび技師の方や循環器科医が見学に来られるほどでありました。また過去8年間で1万2千件の冠動脈造影CT検査の実績がありまして、同機種では日本国内でも第2位の検査件数でした。こういったことで、当院レントゲン技術部門スタッフの技量と熱意は高く、これはかねがね私は当院の宝、自慢の一つとして、常日頃非常に嬉しく思っておりました。

そのような状況下に、今回この最新機種を得たことによって、私どもの診断能力がさらに飛躍的に向上し、一段と循環器専門病院としての機能を高めることができる態勢となりました。今後さらに職員一同、精進をいたしまして、心臓や血管の病気の患者さんのために力を尽くして参る所存であります。関係の皆様方に今後ともよろしくお願いを申し上げます。

2012年4月28日(土)

「256スライスCTで見た心臓の新しい世界」と題して、講演会が開かれました。

熊本中央病院放射線科部長片平和博先生、大阪大学臨床医工学融合研究教育センター長澤芳樹先生よりご講演いただきました。

